

米国 最新の報告書が示す莫大なリンゴ貯蔵量

The Packer 2023年12月21日

米国リンゴ協会は、12月1日にリンゴの貯蔵量に関する最新情報を発表したのに続き、総括ウェビナーを開催し、報告書の数字について説明した。

同協会の業界分析担当ディレクターであるクリス・ガーラック氏は、総貯蔵量(出荷済みを含む)は約1億9千万ブッシェル(同協会の報告書では1ブッシェル=42ポンド=約19kg)で、そのうち1億4千万ブッシェルが生鮮消費、5,100万ブッシェルが加工用であると述べた。(以下「」は同氏の発言)

「前回11月段階でこの規模の総貯蔵量があったのは2014-15年度で、その時は1億8,800万ブッシェル - 1億4,400万ブッシェルが生鮮消費、4,400万ブッシェルが加工用 - であった。おおよそのところ、今回の生鮮消費は当時と同程度である。」

ガーラック氏は、2014-15年度の数字と異なるのは、今シーズンの加工用のリンゴの数字であると言い、昨年は出回り量が少なかったため、加工業者がこの機会を利用して貯蔵量を増やしたのではないかと述べた。

同氏は「今年はリンゴの量が多い」と述べ、生鮮リンゴの貯蔵量は前年比で40%近く多いと付け加えた。

州別の量も多い

ガーラック氏は、ワシントン州は今年の貯蔵量の前年比増加分の大部分を占めていると述べた。同州は前年比38%増で、同氏によると増加分は4,200万ブッシェルに相当し、全米の総増加量の約90%を占める。

ニューヨーク州は前年比44%増の1,500万ブッシェルで、ガーラック氏は、その増加量は全米の増加量の10%に相当すると述べた。

ミシガン州は前年比では6%減であるが、1,200万ブッシェルと、2022年に比べて100万ブッシェルの減少にとどまり、同州の過去5年間の平均を上回っている。

「これらの州は、未出荷の貯蔵量の約94%を占めている。」

貯蔵されている品種

ハニークリスポ、ガラ、レッドデリシャス、グラニースミス及びふじの合計で、リンゴの総貯蔵量の76%を占めている。ガーラック氏によると、同協会は、エンヴィ品種の今後の増加を個別に追跡するため、同品種を「その他の品種」から抜き出した。今シーズン、420万ブッシェルのエンヴィ品種のリンゴが収穫された。コスミッククリスポは950万ブッシェルが収穫され、前年比41%増となった。

輸出の変化

ガーラック氏は、輸出の変化が、今年のこの時期にリンゴの貯蔵量が多い主な理由ではないかと考えている。同氏は、米国のリンゴ輸出量は減少傾向にあると言う。

米国が5,440万ブッシェルを輸出した2014-15年度と比べて、輸出への継続的な注力と、早い時期の積極的な姿勢をデータは示しているとガーラック氏は述べた。

同氏は、貯蔵リンゴの出荷について、「我々は回復に向けて最善を尽くすが、国内需要は十分ではないだろう。貯蔵量は昨シーズンを大きく上回っており、我々は新しい取引先を探し、不作の年に失った取引先との関係を再構築している」と語った。

メキシコは現在、全輸出量の約31%を占める300万ブッシェルで、米国産リンゴの最大の輸出市場である。次いでカナダが200万ブッシェルで、輸出市場の約22%を占めている。第3位は、92万ブッシェルの台湾で、市場の約10%を占めている。

米国産リンゴは、重要な輸出先であったインドを失った。ガーラック氏によると、昨シーズン、米国は約300万ドル相当の19万ブッシェルをインドに輸出した。同氏は、「インド市場を少し取り戻しているのは喜ばしいことだ」と述べた。

執筆者: クリスティーナ・ヘリック

(記事の一部を省略しました。)